

---

# 伝統工芸産業を構成する事業者の経営と その技術継承

経営学部経営学科 磯野 誠

## 要約

本研究は、伝統工芸産業を構成する事業者に注目し、そこにおける伝統技術の継承と経営の成立との関係について、経営学で議論されるドメイン概念に依拠することで理解することを目的とした。伝統工芸産業である絣織産業で、かつそれぞれドメイン定義と経営状況の異なる久留米絣、弓浜絣、倉吉絣を扱う事業者を対象とした事例調査をおこなった。その結果から、ドメイン定義のテクノロジー次元における生産効率の程度と、提供サービス次元における製品意味づけの程度のバランスと、経営成立可能性の因果関係を説明する仮説的モデルを導いた。

本研究の知見をもとにすれば、伝統工芸産業に携わる事業者は、その経営成立を第一としたとき、伝統技術による製品の生産コストを正当化するだけのより難易度の高い製品意味づけが必要となり、そのための資源が必要となる。技術を更新すればそれによる製品生産コストは下がることになり、それを正当化するだけの製品意味づけの難易度は下がる。その場合、その技術更新のための資源と、そのより難易度の低い製品意味づけのための資源が必要となる。

ただし、この知見は、あくまでも今回取り上げた絣織産業の3事例からのものである。今後はより多様な産業のより多様な事例を対象とした調査を行うことにより、その妥当性を高める必要がある。また、経営成立に求められる製品意味づけ（製品価格正当化）とは具体的に、今回取り上げたものだけでなく、幅広い仕方があることが考えられる。今後は製品意味づけとしてどのような仕方があり、どのような仕方が効果的かについて検討する必要がある。

本文は、磯野誠：伝統工芸産業を構成する事業者の経営とその技術継承、地域デザイン学会誌、17、213-231、2021年 に掲載。